



第2部 にぎわいのあと ⑤

「日野自動車さんには研究開発や新しい社会実験などの舞台となってくれればありがたいなどは話している」。東京都日野市の企画部企画経営課の仁賀田宏課長は説明する。日野自動車は2017年1月から茨城県古河市の新工場を本格的に移転する。日野市の工場からは移転作業が進む。

跡地利用に課題

郊外成長 中小が主役

東京・多摩

日野自が工場移転、進む市街化



中堅・中小企業が地域を引っ張る構図を模索

材料調達から加工、品質管理、出荷管理を行う「1個流し生産」で作業する武州工業の従業員

企業	事業内容
武州工業(青梅市)	車用パイプ曲げ加工。1個流しなど独自の生産方式
東洋ポデー(武蔵村山市)	トラック架台。独自提案でメーカーを開拓
メトロール(立川市)	工作機械向け位置決めセンサー。世界で高シェア
エリオニクス(八王子市)	微細加工用の電子ビーム装置。世界で高シェア
東成エレクトロビーム(瑞穂町)	電子ビーム溶接技術。企業連携など豊富
スタック電子(昭島市)	高周波・光伝送技術。放送・通信向け強く

かつての「日野5社(現在の日野自動車、富士電機、コニカミノルタ、オリエント時計、シンフォニアテクノロジ)」という言葉が示すように、日野市は東京郊外の工場の受け皿だった。しかし都心通勤者のベッドタウンなどとして市街化が進み、日野自の周辺も戸建てやマンションが並ぶ。そこに新たな工場が入るのは現実的ではないとの見方が強い。

国内では工場跡地が商業施設やマンション、物流倉庫に変わるケースは下るが、青梅市役所企画部の岩波秀明部長は「大きな事業所で埋めるのは容易ではないだろう」と話す。地元経営者からは「マンションなどとして活用するほうが便利では」との声も出る。

位置決めセンサーや微細加工技術

ニッチ市場で高シェア

大型工場が移転を検討しやすくなったという事情もある。日野自も圏央道で古河とのアクセスが向上したことは移転と無縁ではない。有力工場の誘致という選択が少なくなった東京郊外で、ものづくりなどの産業をどう伸ばすか。1つの手法が「内なる成長」だろう。

多摩地域の産学官連携による企業支援団体、首都圏産業活性化協会(TAMA協会、東京都八王子市の吉田善一会長(東洋大学教授)は「自ら成長しながら周辺の他社も引っ張ってくれる中堅・中小企業を増やすことが重要」と指摘。域内の有望企業に企業連携や産学連携、商品ブランドづくりの支援を急ぐ。

東芝の青梅事業所から数百以南に本社工場を構える武州工業(青梅市)はその1社だ。従業員160人程度の創業65周年を迎える中だが、3年前に市内に新工場を稼働。今年秋には米国に現地法人を設けるなど挑戦が続く。

自動車用エアコン用パイプなどの曲げ加工を担う。手製の機械が並ぶ生産現場は、少し大きな町工場といった雰囲気だ。しかし、1人の作業者が加工や品質管理を一貫して担う「1個流し」など独自の生産方式を強みに、大量生産と少量多品種生産に柔軟に対応。月間生産量は90万本に及ぶ。

日経産業新聞 モバイル



ここからアクセス 携帯で全文読めます